日中学術交流に参加して

2018年、奈文研と中国社会科学院考古研究所は友好共同研究議定書を交わしました。これは1991年以来の共同研究を発展したもので、議定書に基づき2019年２月25日から３月27日まで中国に滞在しました。

中国では北京の考古研究所を主滞在地とし、鄴城工作站や洛陽工作站に出向きました。鄴城では2012年から継続調査中の鄴南城発掘現場を訪れ、昨年着手した内裏中枢部で検出された壮麗な玉石敷道路遺構に目を奪われました。洛陽では奈文研も発掘に関わった漢魏洛陽城の出土瓦整理に参加しました。宮城から出土した鴟尾破片の接合作業をおこない、可能な限り復元して撮影しました。また甘粛省へ足を伸ばし文物考古研究所や博物館、敦煌研究院の展示研究施設を実見し、さらに楡林窟や麦積山石窟等この地域を特色づける石窟遺跡にも訪れました。

北京では研究所主催の2019年度考古学研究系列学術講座の第３回を受け持ち、「日本考古撮影：歴史与技術」と題する発表をおこないました。会場には所員以外に首都博物館員や北京大学等の学生も訪れており、具体的な機材や撮影法に関する質問を受けました。撮影のデジタル化は、若手を中心に実践的技術への習得意欲をもたらしているようです。今回訪れた各地の博物館でも、撮影画像から得たデータを3DやVR・ARに用いて展示に還元している例をたくさん目にし、子供達が目を輝かせていました。いっぽうで根本的な撮影技術について改善すべき部分も垣間見え、この間を埋める技術提携で奈文研が果たすべき役割は重要だと感じました。

諸先輩が重ねた友好関係は本交流を通じて強固になると思います。相互の友好と研究の進展に、今後も寄与できれば幸いです。（企画調整部　栗山 雅夫）

巨大磨崖仏と絶壁の桟道－甘粛省天水市麦積山石窟